

## (ICTを活用した新たな街づくりの紹介－ 2)

### 松山市「スマイル松山プロジェクト」 ～ICTを活用した健康・観光・防災のまちづくり～ (松山市、愛媛大学、松山市文化・スポーツ振興財団、(株)電通西日本、(株)電通、(株)パイブドビッツ)

#### 【概要】

松山市では、一人でも多くの人が笑顔で自分たちの住むまちに愛着や誇りをもち、また、魅力にあふれ、市外の人からも「行ってみたい」「住みたい」と思われるまちづくりを進める中で、半径5km圏内に都市機能が集中し、路面電車等の公共交通機関が充実しているコンパクトシティであり、毎年、人口の10倍を超える観光客が来訪する観光都市であるといった本市の特性を活かし、「ウォーキング(街歩き)」を軸に、①健康寿命の延伸、②街歩き観光、滞在型観光の推進、③大規模災害への基盤強化の3つの大きな課題解決に向けて、ICTを活用した街づくりに取り組んでいる。

コンパクトで魅力溢れるまち松山を、住民が健康増進のために歩き、そして観光客が街を巡ることで、超高齢化社会における「住民の“健康長寿”」と外需獲得に向けた「観光客の“滞在促進”」の両立を図り、あわせて100年に1度のペースで発生するとされる南海トラフ地震をはじめとする災害に備える「安心・安全」な街づくりを一体的に推進することで、「住んでよし、訪れてよし」の活力溢れる都市としての持続的な発展を目指すものである。

#### 【コラム】

##### 1. 事業実施の経緯・背景

「超高齢化」と「人口減少」下において、「個人行動」と「社会構造」は大きく変わることになる。この“変化”にいかに対応できるかを、今後の行政経営におけるポイントとして捉え、“これからの街づくり”を推進するエンジンとして、ICT(情報通信技術)の活用を積極的に行うこととした。

松山市の担当職員、愛媛大学(医学部、教育学部)の先生方、そして民間事業者が様々な意見とアイデアをぶつけ合い、地域課題の洗い出しから絞り込み、課題解決に向けた中長期的なアプローチと持続可能な事業モデル検討を行い、松山市をはじめ多くの自治体が直面する「健康」「観光」「防災」の3つの領域の課題解決を目的とするICTを活用した街づくりがスタートした。

##### (1) 健康

松山市で年間約25億～30億円ずつ増えている医療費(国民健康保険)と介護費の将来負担をできる限り小さくするため、生活習慣病の予防により「健康寿命の延伸」を図る。

##### (2) 観光

働く年齢の人口が減少する中で、地域経済の活性化を図るため、滞在型観光を推進することで交流人口を増やす。

##### (3) 防災

南海トラフ地震をはじめとする大規模災害発生リスクを抱える中で、住民の安心・安全を守るため、「防災基盤の強化」を図る。

##### 2. 松山市ICT街づくり「スマイル松山プロジェクト」の概要

##### (1) 健康ICT事業「スマイル松山健康ナビ」

約500名のモニターに対して、個々の健康データに基づきEメールによるアドバイスを提供し、日常の中で気

軽に取り組める「ウォーキング」を軸にICTを活用した生活習慣病予防モデルを構築した。

- ① 毎日の歩数を計測する活動量計、体重・体脂肪、血圧といった日常の健康データと直近の健康診断データを統合データベースに蓄積。
  - ② 愛媛大学医学部と教育学部でデータの分析を行い、健康アドバイスと運動アドバイスをEメールにより提供。
  - ③ さらに、ウォーキングイベントの開催をはじめとする実施支援を行うことで、より多くの市民の健康づくりを効率的・効果的にサポートできる運営体制を構築。
- (2) 観光・防災ICT事業「スマイル松山ハイク&安心ナビ」

“平常時”には、観光スポットやグルメ、観光ルートなどの観光情報を地図上に表示し、土地勘がなくても便利に松山の街を巡ることができ、“緊急時”には、最寄の避難所や危険区域(土砂マップ、標高マップ)などの防災情報を表示し、市の災害対策本部からの避難情報を受信することができる観光と防災の機能をあわせ持つアプリを開発。観光・防災の機能を切り替え可能とすることで、「利用者の利便性向上」と「導入コストの抑制」を実現した。



### 3. 事業実施にあたって配慮した点

- (1) 参加者との繋がりを意識

参加者から送信されたデータに基づいて、大学の先生からアドバイスメールが届くだけでなく、ウォーキングイベント・講座を楽しんでもらうなど、参加者との繋がりを意識したコミュニケーションを展開することで、参加者同士の仲間づくりにまで発展させた。

- (2) データ化された行政情報(健康・観光・防災)を地域資産として共有

個人が特定できない匿名による健康データ(歩行数、体重・体脂肪、検査結果など)を愛媛大学(医学部、教育学部)の分析・アドバイス提供において活用できることとともに、観光・防災のデータについて、観光スポットやイベントの写真データに緯度・経度等の位置情報を加えた地図データを事業者や個人に提供できる仕組みを構築し、ICTを活用した基盤の整備だけでなく、データ化された行政情報を含め地域資産として共有できるように心掛けた。

### 4. 実証事業の成果(利用件数や利用者数、利用者からの反応)

- (1) 健康

約4カ月の実証期間で、参加者の意識が「つらい・面白くない」から「楽しい・やり甲斐を感じる」に、行動が

「車やエレベーターを利用する」から「徒歩・階段を利用する」に変化し、モニター参加者の平均歩数は、全国平均に対して男性では38%、女性では24%も上回るなど、大幅に増加した。

- ① 血液検査では、コレステロール値と中性脂肪が改善し、「生活習慣病の予防効果」があることを確認
  - ② アンチエイジング検査では、脳年齢と骨年齢が改善し、「うつ・認知症予防効果」と「骨粗しょう症の予防効果」があることを確認。
- 「住民の健康寿命の延伸」、ひいては「将来の医療費・介護費の抑制」につながるとの分析結果を得ることができた。

## (2) 観光・防災

アプリダウンロード数は累計6,859件(26年8月11日時点)と、月平均700～800ダウンロードずつ増えており、現在も伸び続けている。

幅広い年齢層の利用者、市内だけでなく県内外の利用者に、“予定外の時間を有効に使えた”と満足いただくなど、「滞在時間の向上」につながっていた。

なお、住民だけでなく観光客からも、“8割”を超える利用者から防災機能に対して好意的な評価であった。

## 5. 今後の展開

私たちが構築したモデルが同じ課題を抱える他地域のお役に立てるよう、健康・観光・防災のICTを活用した共通基盤のさらなる深化に取り組むとともに、愛媛県下の市町をはじめとする他自治体における普及展開にも取り組みます。成果を他地域への汎用化し、他自治体との連携により共通する地域課題の解決を目指します。

- ① 国民健康保険・介護保険の財政安定化
- ② 広域観光推進による観光客の増加
- ③ 大規模災害に備える防災基盤整備

どれも大きな課題であり、容易に解決できるものではないが、持続可能な仕組みづくりを今後も追求する。

### (問い合わせ先)

松山市産業経済部観光・国際交流課

主査 中島 敏喜(なかじま としき)

TEL:089-948-6556 FAX:089-943-9001

e-mail:toshiki@city.matsuyama.ehime.jp